
第2期

秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略

～“住んでみよう・住み続けよう”秦野みらいづくりプロジェクト～

令和3年3月

秦 野 市

目 次

1	総合戦略策定の趣旨・位置付け.....	1
2	計画期間.....	2
3	市総合戦略の構成.....	3
4	目標の設定と効果検証の仕組み.....	3
5	プロジェクト(基本目標)及び講ずべき施策に関する基本的方向.....	4
基本目標1 健康で安心して暮らせるプロジェクト.....		
1	水とみどりを育む取組みの推進.....	6
2	人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進.....	7
3	生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進.....	8
4	災害や犯罪に強いふるさとづくりの推進.....	9
基本目標2 未来を拓く子育て・教育プロジェクト.....		
5	安心して妊娠・出産できる環境づくりの推進.....	11
6	秦野で子育てして良かったと思える環境づくりの推進.....	12
7	次代を担う「はだのっ子」の確かな学力向上施策の推進.....	13
8	市民総ぐるみによる学校給食の推進.....	14
基本目標3 小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト.....		
9	温泉を生かしたにぎわい創造の推進.....	16
10	学生の力を生かしたにぎわい創造の推進.....	16
11	文化財・桜・湧水を生かしたにぎわい創造の推進.....	17
12	丹沢登山や渋沢丘陵を生かしたにぎわい創造の推進.....	17
基本目標4 新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト.....		
13	表丹沢魅力づくり構想の推進.....	19
14	地域特性を生かした企業誘致の推進.....	19
15	新たな人の流れを支えるネットワーク形成の推進.....	20
16	国道246号バイパス(厚木秦野道路)早期全線事業化・整備の促進...	20
基本目標5 新たな日常創造プロジェクト.....		
17	新型コロナウイルスと共存した感染症対策と経済活動の推進.....	22
18	デジタル化の推進.....	22
横断プロジェクト：移住・定住活性化.....		
		23

1 総合戦略策定の趣旨・位置付け

(1) 「まち・ひと・しごと創生」とは

国では、人口減少に歯止めをかけるとともに東京圏への人口の過度の集中を是正し、将来に渡って活力ある社会を維持するため、平成26年（2014年）に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（以下「人口ビジョン」という。）」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

これを受け、地方公共団体においても、国の人口ビジョン及び総合戦略を勘案して、「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」を策定し、国と地方が一体となって総合的な取組みを進めてきました。

まち・ひと・しごと創生については、中長期的視点に立って取り組む必要があるため、国では、これまでの施策の検証を行い、優先順位も見極めながら「継続は力なり」という姿勢を基本として、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「第2期国総合戦略」という。）を策定しました。地方公共団体においても、こうした国の動きを捉え、地方創生の動きをさらに加速させることが求められています。

第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020改訂版）概要

（令和2（2020）年12月20日閣議決定）

1 地方創生の目指すべき将来

●将来にわたって「活力ある地域社会」の実現

「人口減少を和らげる」「地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、地域内経済循環を実現する」「人口減少に適応した地域をつくる」

●「東京圏への一極集中」の是正

※新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた地方創生の今後の方向性

- ①感染症による意識・行動変容を踏まえた地方へのひと・しごとの流れの創出
- ②各地域の特色を踏まえた自主的・主体的な取組の促進

2 第2期における施策の方向性

基本目標1 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする

基本目標2 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

横断的な目標1 多様な人材の活躍を推進する

横断的な目標2 新しい時代の流れを力にする

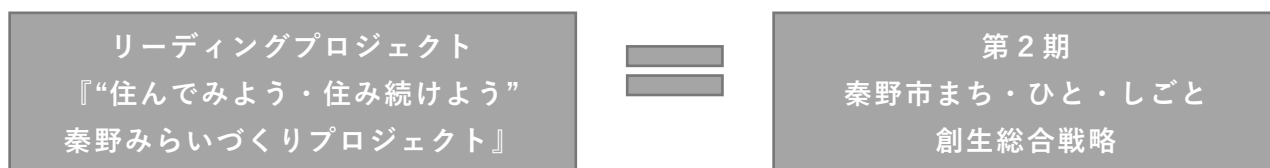
(2) 「第2期秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

第2期秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第2期市総合戦略」という。）は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づき、国の人口ビジョン及び総合戦略を勘案し、「秦野市人口ビジョン（令和3年3月改定）」で示した将来展望や目指すべき方向性の実現に向け、重点的に取り組むプロジェクトをまとめたものです。

本市では、本格的な人口減少、少子・超高齢社会が到来し、まちづくりの転換期を迎えた中、秦野市総合計画はだの2030プラン（以下、「総合計画」という。）基本構想において、新たな都市像「水とみどりに育まれ誰もが輝く暮らしよい都市（まち）」を定め、その実現に向けたまちづくりに取り組んでいきます。

特に、総合計画のリーディングプロジェクト「“住んでみよう・住み続けよう” 秦野みらいづくりプロジェクト」（以下、「リーディングプロジェクト」という。）は、新たな都市像の実現に向け、計画全体をリード（先頭に立って導く）し、誘導的、重点的に取り組んでいくプロジェクトです。

そのため、リーディングプロジェクトを第2期市総合戦略におけるプロジェクトとして位置づけ、一体的に取り組むことにより、地域資源を生かした活力あるまちづくりを目指します。



2 計画期間

総合計画前期基本計画の実行期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間としています。

リーディングプロジェクトを第2期市総合戦略のプロジェクトとしていることから、総合計画の計画期間との整合を図るため、第2期市総合戦略の計画期間も令和3年度から令和7年度までの5年間とします。

3 市総合戦略の構成

(1) プロジェクト（基本目標）

第2期国総合戦略が定める政策分野を勘案して、第2期市総合戦略における政策分野を定め、5年後の基本目標（実現すべき成果に係る数値目標 K G I ※）を設定しています。

(2) 講ずべき施策に関する基本的方向

基本目標を達成するために講ずべき施策の基本的方向を示しています。

(3) 具体的な施策と客観的な指標

基本的方向に沿って、具体的な施策を記載するとともに、各施策の効果を客観的に検証できるようにするため、重要業績評価指標（K P I ※）を設定しています。

4 目標の設定と効果検証の仕組み

「まち・ひと・しごと創生」においては、若者や女性への支援、そしてまちづくりまで多岐にわたる分野について、横断的に取り組んでいくことが求められています。

そのため、事業の推進に当たっては、行政のみならず、市民や事業者、関係者等がそれぞれの役割と連携のもとで協働により取り組んでいくことが必要です。

計画の進捗状況については、基本目標及び施策ごとにそれぞれ目標を設けるとともに、評価・検証し、必要に応じて取組内容を見直す P D C A サイクルを重視して、その実効性を高めます。

	目標の設定内容	効果検証時期	効果検証の方法
基本目標	実現すべき成果に係る数値目標（K G I）	計画期間終了後	有識者等による外部評価を経て、必要に応じて、戦略の見直しを行う
施策	重要業績評価指標（K P I） 検証による見直しもあり得る。	毎年	

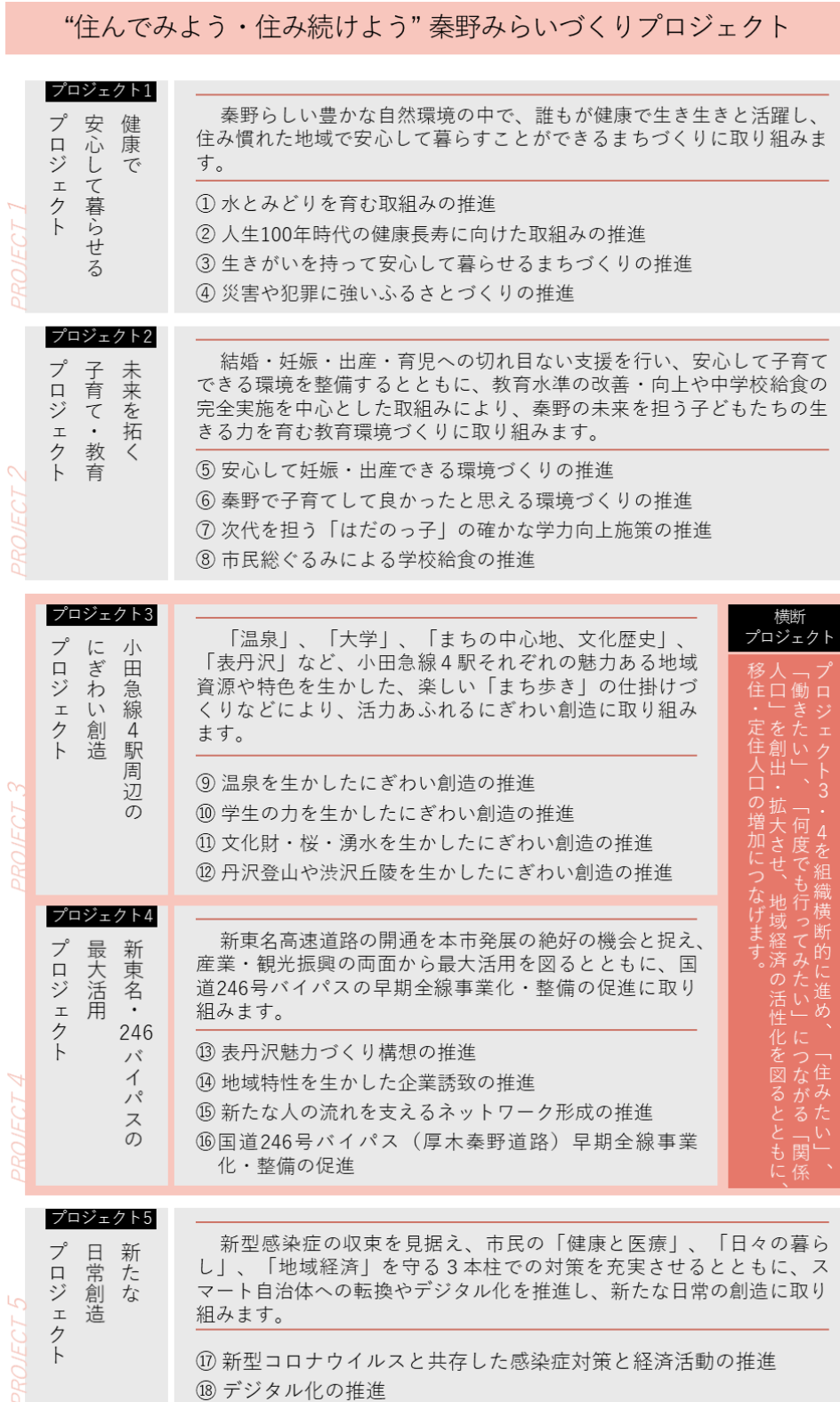
※実現すべき成果に係る数値目標（K G I）…Key Goal Indicator の略称。目標を達成するための指標。

重要業績評価指標（K P I）…Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

5 プロジェクト(基本目標)及び講ずべき施策に関する基本的方向

第2期市総合戦略では、人口減少と地域経済縮小を克服するための有効な施策として、次のとおりプロジェクト(基本目標)を設定しました。

《プロジェクト(基本目標)体系図》



基本目標 1

健康で安心して暮らせるプロジェクト

秦野らしい豊かな自然環境の中で、誰もが健康で生き生きと活躍し、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくりに取り組みます。

実現すべき成果に係る数値目標 (KGI)			
	R元 (2019) 現状値		R7 (2025) 目標値
監視基準井戸の地下水位	121.8m	➡	121.6m
平均自立期間 (日常生活動作が自立している期間の平均・暦年)	男性 83.12 歳 (R2) 女性 85.79 歳 (R2)	➡	男性 83.92 歳 女性 86.28 歳
秦野警察署管内刑法犯認知件数 (年間)	650 件	➡	620 件

《基本的方向》

- 1 水とみどりを育む取組みの推進
- 2 人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進
- 3 生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進
- 4 災害や犯罪に強いふるさとづくりの推進

1 水とみどりを育む取組みの推進

市民共有の財産である水とみどりを守り育て、生かすことにより、恵まれた自然環境と共生した秦野らしさのあるまちづくりを推進します。

《主な取組み》

- ・地球温暖化対策
- ・秦野名水の保全・利活用 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
水源の森林エリアにおける森林整備（奥山を除く）面積	26.97ha	75ha	125ha
くずはの家における自主事業の実施回数	82回	85回	88回
秦野市の二酸化炭素排出量	768千トン (H30年度)	736千トン	720千トン
植樹祭、下草刈、県民参加の森林づくりなど森林整備事業への市民参加数	937人	1,100人	1,150人
秦野名水ロゴマークの使用件数（累計）	87件	130件	160件

2 人生100年時代の健康長寿に向けた取組みの推進

人生100年時代を心身共に健康で安心して暮らせるよう、地域医療の充実・強化を図りながら健康長寿に向けた取組みを推進します。

《主な取組み》

- ・生活習慣病重症化予防
- ・高齢者の保健事業と介護予防の一体化 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
未病センター健康相談会における利用者数	182人	240人	260人
特定健康診査の受診率 及び特定保健指導の利用率	33.6% 14.4%	40.0% 26.0%	40.0% 26.0%
「週1回30分以上スポーツ・レクリエーション活動する市民」の割合	42.9%	57.5%	65.0%
市内の就業看護職員数	1,516人	1,600人	1,650人

3 生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりの推進

誰もが住み慣れた地域で、生きがいを持ちながら安心して暮らせるよう、地域における人と人とのつながりを大切にし、互いに助けあい、共に支えあうまちづくりを推進します。

《主な取組み》

- ・地域共生社会やエイジフレンドリーシティの実現に向けた取組み など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
地域共生社会の実現に向けた福祉研修の実施回数(年間)	—	2回	2回
要介護等認定率	14.1%	15.9%	17.0%
認知症サポーター養成者数	13,250人	20,000人	24,000人
住民主体の通いの場への高齢者の参加者数	4,892人	5,100人	5,200人

4 災害や犯罪に強いふるさとづくりの推進

市民の生命や財産を守り、安全・安心な暮らしを実現させるため、市民、事業者、行政が一体となった地域力や都市の安全性を強化する取組みを推進します。

《主な取組み》

- ・市民総ぐるみの防災対策
- ・危機管理体制の整備 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
防災講演会等の参加者数	3,749人	4,110人	4,300人
木造住宅の耐震相談会の開催回数(年間)	12回	12回	12回
管理不全空家の状態が改善された割合	60.0%	66.0%	70.0%

結婚・妊娠・出産・育児への切れ目ない支援を行い、安心して子育てできる環境を整備するとともに、教育水準の改善・向上や中学校給食の完全実施を中心とした取組みにより、秦野の未来を担う子どもたちの生きる力を育む教育環境づくりに取り組めます。

実現すべき成果に係る数値目標 (KGI)		
	R元 (2019) 現状値	R7 (2025) 目標値
合計特殊出生率	1.12 (H30)	1.43
全国学力・学習状況調査等における集計値 (平均正答率)	60.2% (全国 63.8%)	全国平均以上
全国学力・学習状況調査等における集計値 (学習意欲)	60.4%	68.0%
全国学力・学習状況調査等における集計値 (非認知能力)	71.2%	81.0%

《基本的方向》

- 5 安心して妊娠・出産できる環境づくりの推進
- 6 秦野で子育てして良かったと思える環境づくりの推進
- 7 次代を担う「はだのっ子」の確かな学力向上施策の推進
- 8 市民総ぐるみによる学校給食の推進

5 安心して妊娠・出産できる環境づくりの推進

周産期医療及び保健体制の整備・充実などにより、安心して妊娠・出産ができる環境づくりを推進します。

《主な取組み》

- ・周産期医療や妊娠・出産の保健体制の充実 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど、何らかの解決する方法を知っている保護者の割合（3歳6か月児健康診査時調査）	66.1%	70.0%	75.0%
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合（1歳6か月児健康診査時調査）	86.4%	87.0%	87.5%

6 秦野で子育てして良かったと思える環境づくりの推進

結婚から育児までの切れ目ない支援により、地域で安心して子育てができる環境づくりを推進します。

《主な取組み》

- ・若い世代への結婚支援
- ・子育て環境の充実
- ・子ども・家庭への支援 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
定員超過により保育所等に入所できない児童の数(4月1日時点)	9人	0人	0人
地域子育て支援拠点事業の箇所数	8箇所	9箇所	9箇所
特に児童虐待のリスクが高い要保護児童に対する個別ケース検討会議の開催割合	80%	95%	100%
ひとり親家庭等の保護者の資格取得後の就職状況	100%	100%	100%

7 次代を担う「はだのっ子」の確かな学力向上施策の推進

子どもたちの新たな学びのスタイルを構築するとともに、次世代の教育を見据えた環境整備により、「はだのっ子」の確かな学力向上に向けた取組みを推進します。

《主な取組み》

- ・園小中一貫教育の推進
- ・学校教育の情報化 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
保護者アンケートにおいて、園小中一貫教育が推進されていると回答した人の割合	67%	72%	77%
学校運営協議会の設置校数	7校	14校	22校
授業でICTを効果的に活用できていると回答した教職員の割合（文科省調査）	74.4%	90%	100%

8 市民総ぐるみによる学校給食の推進

中学校給食の完全実施を契機とし、商業・農畜産業などの地場産業との連携による地産地消や地域に根ざした食育の推進により、市民総合ぐるみの学校給食を推進します。

《主な取組み》

- ・産学公民連携による食育及び地産地消の推進 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
学校給食食材における 秦野産野菜の使用割合	37.2%	40.0%	50.0%
地産地消応援サポーター登録店舗数	47店	53店	55店

「温泉」、「大学」、「まちの中心地、文化歴史」、「表丹沢」など、小田急線 4 駅それぞれの魅力ある地域資源や特色を生かした、楽しい「まち歩き」の仕掛けづくりなどにより、活力あふれるにぎわい創造に取り組みます。

実現すべき成果に係る数値目標 (KGI)		
	R元 (2019) 現状値	R7 (2025) 目標値
4 駅の乗降客数の合計 (1 日平均)	123,058 人	123,000 人
定住意向 (住み続けたい、どちらかと 言えば住み続けたいと考えて いる市民の割合)	79.3% (R2)	95%

《基本的方向》

- 9 温泉を生かしたにぎわい創造の推進
- 10 学生の力を生かしたにぎわい創造の推進
- 11 文化財・桜・湧水を生かしたにぎわい創造の推進
- 12 丹沢登山や渋沢丘陵を生かしたにぎわい創造の推進

9 温泉を生かしたにぎわい創造の推進

大山と鶴巻温泉駅を結ぶバスの運行など、自治会、商店会等と連携し、温泉地としての魅力を生かした駅周辺のにぎわいづくりを推進します。

《主な取組み》

- ・ 鶴巻温泉駅周辺のにぎわいづくりに向けた源泉の活用
- ・ にぎわいにつながる商店会活動への支援 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
鶴巻温泉年間観光客数	173,950人	173,950人	180,977人
弘法の里湯年間利用者数	147,243人	147,243人	153,191人

10 学生を生かしたにぎわい創造の推進

駅利用者の利便性や安全性を高めるとともに、大学等と連携し、多くの学生が集まる駅という特色を生かしたにぎわいづくりを推進します。

《主な取組み》

- ・ 東海大学駅周辺の特色ある商業環境の形成
- ・ 大学と連携した地域課題への取組み など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
学生と連携した商店街イベントの参加者数	7,000人	7,350人	7,700人
東海大学前駅の乗降者数(1日平均)	38,909人	38,000人	38,000人

1 1 文化財・桜・湧水を生かしたにぎわい創造の推進

良好な市街地形成に加え、まちの中心として発展した歴史や湧水、文化、桜並木などの地域資源を生かしたにぎわいづくりを推進します。

《主な取組み》

- ・国道・県道の整備促進
- ・魅力ある商店街づくりのための環境整備支援 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
震生湖年間観光客数	39,089人	39,089人	40,668人
弘法山公園年間観光客数	344,382人	344,382人	358,295人
名水はだの富士見の湯 年間来訪者数	76,403人	76,403人	79,489人

1 2 丹沢登山や渋沢丘陵を生かしたにぎわい創造の推進

表丹沢や渋沢丘陵への玄関口として多くの登山者やハイカーが訪れるため、商店会や関係団体と連携し、まちの魅力発信とにぎわいづくりを推進します。

《主な取組み》

- ・シティプロモーションの推進
- ・地域資源を活用した地域ブランド育成の推進 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
頭高山年間来訪者数	7,684人	7,684人	7,994人
大倉地区年間観光客数	332,165人	332,165人	345,584人
秦野丹沢まつり来訪者数	56,000人	56,000人	58,262人

基本目標 4

新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト

新東名高速道路の開通を本市発展の絶好の機会と捉え、産業・観光振興の両面から最大活用を図るとともに、国道246号バイパスの早期全線事業化・整備の促進に取り組みます。

実現すべき成果に係る数値目標 (KGI)		
	R元 (2019) 現状値	R7 (2025) 目標値
年間観光客数	4,472,000 人	4,652,000 人
観光客の年間消費額	59 億 1,800 万円	61 億 5,700 万円

《基本的方向》

- 1 3 表丹沢魅力づくり構想の推進
- 1 4 地域特性を生かした企業誘致の推進
- 1 5 新たな人の流れを支えるネットワーク形成の推進
- 1 6 国道246号バイパス（厚木秦野道路）早期全線事業化・整備の促進

1 3 表丹沢魅力づくり構想の推進

表丹沢における農林業、観光、文化、歴史、スポーツなど、広範な分野の地域資源を磨き、つなげ、新たに触れる機会を増やし、本物の魅力を見つけ出せる表丹沢とすることにより、交流人口の増加と地域活性化を推進します。

《主な取組み》

- ・表丹沢ツーリズム（仮称）の構築・推進、総合ホームページの構築・運用など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
表丹沢の魅力発信WEBサイトへの年間アクセス件数	65,797件	80,000件	88,200件
表丹沢野外活動センター年間利用者数	11,266人	15,000人	17,000人
ヤビツ峠レストハウス年間利用者数	—	18,250人	18,987人

1 4 地域特性を生かした企業誘致の推進

新東名高速道路等のネットワークや地域特性を生かした新たな雇用の創出につながる周辺への企業誘致を推進します。

《主な取組み》

- ・新市街地ゾーンの土地利用検討（西大竹地区、戸川地区） など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
新規立地及び施設再整備企業数（企業誘致条例の優遇措置適用企業数）	3社	2社	2社

15 新たな人の流れを支えるネットワーク形成の推進

スマートインターチェンジから市街地へのアクセス性を高めるなど、新東名高速道路開通に伴う新たな人の流れを支えるネットワーク形成を推進します。

《主な取組み》

- ・ 構想路線等の整備
- ・ 周辺市道の再整備 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
構想路線（都市計画道路 戸川堀山下線（仮称））の整備進捗状況	0%	85%	100%

16 国道246号バイパス（厚木秦野道路）早期全線事業化・整備の促進

県、周辺自治体と連携し、国道246号バイパスの建設促進や未事業化区間の早期事業化を促進します。

《主な取組み》

- ・ 国への要望活動の推進 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
早期全線事業化・整備の促進に係る要望回数	4回	4回	4回

新型コロナウイルスの収束を見据え、市民の「健康と医療」、「日々の暮らし」、「地域経済」を守る3本柱での対策を充実させるとともに、スマート自治体への転換やデジタル化を推進し、新たな日常の創造に取り組みます。

実現すべき成果に係る数値目標 (KGI)		
	R元 (2019) 現状値	R7 (2025) 目標値
標準財政規模に対する 実質収支と財政調整基金 現在高の割合 (適正 な実質収支比率及び財 政調整基金現在高比率 の確保)	14.2%	15.0%
各種手続のオンライン 化率	34.0%	100%

《基本的方向》

- 17 新型コロナウイルスと共存した感染症対策と経済活動の推進
- 18 デジタル化の推進

17 新型コロナウイルスと共存した感染症対策と経済活動の推進

感染症から市民の健康を守るとともに、新たな日常における日々の暮らしや地域経済を守る施策を推進します。

《主な取り組み》

- ・ ワクチン接種体制の構築・実施
- ・ 地域経済活性化事業 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
工業統計調査における、従業員4人以上の事業所の1年間の製造品出荷額等	4,402億円	4,402億円	4,402億円

18 デジタル化の推進

あらゆる市役所業務でのICTの積極的活用により、スマート自治体への転換やデジタル化を推進します。

《主な取り組み》

- ・ ICTを活用した行政運営効率化の推進
- ・ 各種手続きのデジタル化の推進 など

重要業績評価指標 (KPI)	R元 (2019) 現状値	R5 (2023) 中間値	R7 (2025) 目標値
市ホームページへの年間アクセス件数	797万件	812万件	845万件
ICTの活用により削減された職員の事務作業時間(累計)	—	3,300時間	7,350時間
LINE友達登録数	—	17,000人	21,000人

横断プロジェクト：移住・定住活性化

本市に多くの人の流れを呼び込むことが期待される「プロジェクト3：小田急線4駅周辺のにぎわい創造プロジェクト」及び「プロジェクト4：新東名・246バイパスの最大活用プロジェクト」を組織横断的に進め、「住みたい」、「働きたい」、「何度でも行ってみたい」につながる「関係人口」を創出・拡大させることにより、地域経済の活性化を図るとともに、移住・定住人口の増加につなげます。

実現すべき成果に係る数値目標（KGI）		
	R元（2019） 現状値	R7（2025） 目標値
30代の転出超過者数 （暦年）	107	0

《主な取組み》

- ・関係人口の創出・拡大の取組み
- ・総合的な住宅施策の検討
- ・さと地共生住宅開発許可制度の推進
- ・空家活用の促進 など

重要業績評価指標 （KPI）	R元 （2019） 現状値	R5 （2023） 中間値	R7 （2025） 目標値
住宅施策を活用した 年間移住世帯数	—	5世帯	5世帯